



平成25年2月21日

北朝鮮による核実験実施発表に対する  
放射能影響の観測結果等について

(第16報)

標記の件について、別添のとおりお知らせします。

<お問い合わせ先>

科学技術・学術政策局放射線対策課

課長 小川 (内線 3900)

放射線環境対策室長 田村 (内線 3930)

放射線環境対策官 おおじみ 大慈弥 (内線 4038)

電話 : 03-5253-4111 (代表)

北朝鮮による核実験実施発表に対する放射能影響の観測結果等について  
(第16報)

平成25年2月21日  
文部科学省  
放射線対策課

平成25年2月12日の北朝鮮からの地下核実験の実施発表を受け、同日付の放射能対策連絡会議申合せに基づき、関係機関の協力を得て、我が国の放射能影響を把握するため、放射能観測等を実施しているところです。今回新たに得られた測定結果は、防衛省からの報告によると以下のとおりです。

1. 高空のキセノンの採取・測定結果

航空自衛隊機により、平成25年2月13日に日本上空でキセノンの採取を行い、財団法人日本分析センター（むつ市）において分析を実施した結果、検出された放射性キセノンは核実験発表前の国内の地上での測定結果の範囲内のレベルである【別紙1参照】。

防衛省航空機による高空のキセノン分析調査結果報告  
(試料採取期間2月13日15時00分～2月13日15時19分)

採取日	場所		測定結果(mBq/m <sup>3</sup> )
	空域	高度(m)	
平成25年2月13日	中部 (愛知沖)	約300	放射性キセノン: 1.9*

測定時間: 約172,800秒(約48時間)

\* 平成25年2月13日(水)に実施した中部空域の分析の結果検出された放射性キセノンの放射能濃度は、核実験発表前(平成20年10月以降、平成23年2月までに財団法人日本分析センターにより千葉市地上で検出された最大値6.7mBq/m<sup>3</sup>)の範囲内のレベルです。

## 25. 2. 13の希ガスの採取ポイント

